

3月8日は「国際女性デー」

国際女性デーは、国連が1975年に定めた国際的な記念日です。**世界中の女性が、女性の社会参加や労働差別の撤廃などを求め行動を起こす日**として制定されました。この日は、世界中で女性団体による集会やイベントが開かれます。しかし、現在は、当初の目的である政治色は薄れ、**男性が女性に対して感謝の気持ちを表す日**として定着しているそうです。

国際女性デーが制定された背景

国際女性デーの起源は、1857年3月8日にニューヨークの被服工場で働く女性が、労働条件の改善を求めて抗議を行った事が発端だといわれています。そして、50年後の1908年3月8日に、ニューヨークの女性労働者が婦人参政権を求めてデモを起こしました。これを受け、ドイツのクララ・ゼトキン氏が、3月8日を**世界中の女性が一致して男女平等と平和のための行動を起こす日**として提起、国連に採択されたことで、国際的な記念日に制定されました。

日本では、認知度は高くありませんが、国連や欧州の国々では、大々的な記念日として扱われています。例えば、ロシアは、3月8日を国民の祝日とし、男性が女性に花やプレゼントを贈ります。中国でも祝日とされており、女性だけは、半日休暇になるそうです。またイタリアでは女性に対してミモザの花が贈られると聞きます。

*参考 <http://www.fj9.info/post-930/> 2月6日アクセス

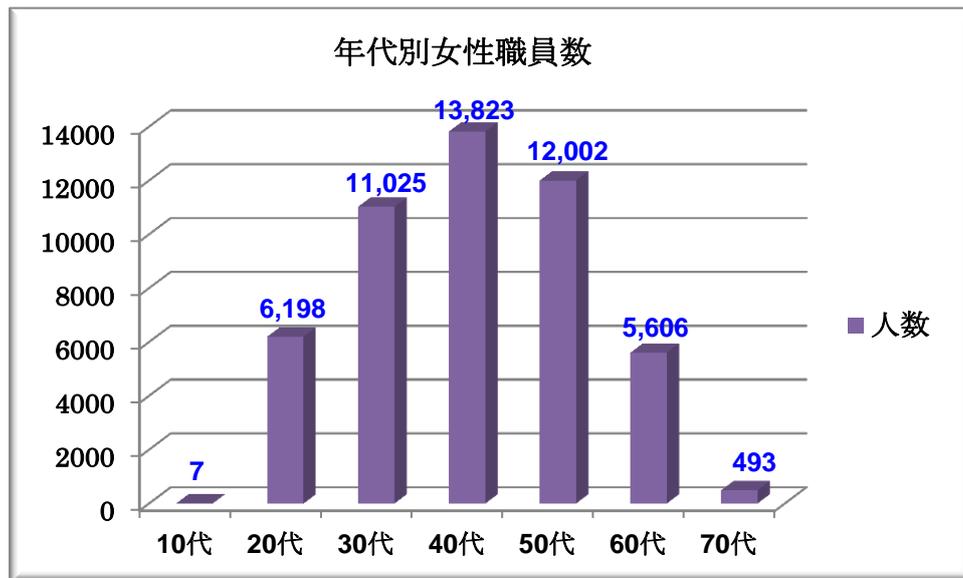


2 マンスリー・ヘルシートピックス（2015年3月号）

第一生命・女性職員の健康について

第一生命は、全職員の約8割を女性が占めています。今回、国際女性デーにちなみ当社・女性職員の健康にフォーカスしてみます。

図 2014年4月1日時点の一般女性被保険者数（在籍者）



- 関連会社および第一生命内勤、営業職員を含む（特退・任継・被扶養者は含まず）
- 総数：49,154名
- 年齢分布：18歳～74歳（平均44.73歳）
- 40代の女性職員が最多で、次いで50代、30代と続く

【女性もいきいきプロジェクト】について

女性には、年代別に様々なライフイベント（結婚・妊娠・出産・子育て・更年期・介護など）があります。これに伴う体調の変化により業務遂行能力が発揮しにくくなった（パフォーマンスの低下）、疾患に発展したりして、業務に支障をきたすことも多いと推測されます。特に女性特有の疾患は、年々増加の傾向にある事が、私達の調査で判明しています（女性もいきいき健康白書）。

2012年、働く女性に優しい職場作りを医療職サイドからアプローチするために、【女性もいきいきプロジェクト】を発足しました。メンバーは、日比谷診療所の女性スタッフ（看護師・薬剤師・歯科衛生士）です。女性職員の健康の維持・向上を通じて、各自

がパフォーマンスをしっかりと発揮し、会社収益に貢献するために、医療スタッフが健康をサポートします。これは、当社が掲げている**健康経営**に準じるものです。

女性もいきいき健康白書より

【女性もいきいきプロジェクト】は、女性特有の疾患に関して、2008年患者疾患調査（厚生労働省調査）と2007年～2011年の女性の疾病に関する医療費の推移（当社健康保険組合調査）を比較・分析しました。

今回、抽出した疾患は、厚生労働省の疾病分類コードに従い、以下の5項目を抽出し、健保のレセプト（外来数・入院数）と突合しました。

1. 抽出した疾患

- ① 良性新生物、およびその他の新生物（乳がん・子宮がん・子宮筋腫など）
- ② 貧血（主に鉄欠乏性貧血）
- ③ その他の内分泌、栄養および代謝疾患（卵巣機能障害：多のう胞性卵巣症候群・早期閉経）
- ④ 月経障害、および閉経器周辺障害（月経困難症・閉経期および女性更年期状態など）
- ⑤ 乳房、およびその他の女性生殖器の疾患（子宮内膜症・乳腺炎・卵管炎・卵巣炎・膣炎など）

2. 分析結果

ここでは、誌面の都合上、詳細な結果を記載できませんが、全国比において、当社の女性の方が、外来数、および入院数が多かった2項目（疾患）について、概要を記載します。

- ① その他の内分泌、栄養および代謝疾患（卵巣機能障害：多のう胞性卵巣症候群・早期閉経）
 - 2007年～2011年の外来・入院数の推移は、年々増加しており、特に50代後半～60代前半に多かった
 - 支払い総額も増加している
 - 支払い件数は、厚生労働省の全国調査（2008年）と比較してみると、当社の

方が上回っている

- ② 乳房、およびその他の女性生殖器の疾患（子宮内膜症・乳腺炎・卵管炎・卵巣炎・膣炎など）
- 2007年～2011年の外来・入院数の推移は、年々増加しており、外来は、30代に多く、入院は30代～40代に多かった
 - 支払い総額も増加している
 - 支払い件数は、厚生労働省の全国調査（2008年）と比較してみると、当社の方が上回っている
 - 20代後半～30代前半の職員が多く通院していた（25～40%）

Empowering Woman & Health ーずっと輝く女性と健康ー

当社は、**ダイバーシティ&インクルージョン**の取り組みのうち、職員の多くを占める女性が活躍できるよう、意識改革や育成体系の充実に取り組んでいます。具体的には、中期経営計画（2013～2015年度）で、2016年に女性管理職比率を20%とすることを目標に掲げ、生涯設計デザイナー・内勤職員問わず、さまざまな取り組みを行っています。この結果、2014年4月1日付で、当社初の女性補佐役（担当執行役員を補佐する位置づけ）が誕生するとともに、新規管理職登用者のうち3割が女性となりました。

また、全国1,200カ所を超える営業オフィスのうち、4割以上の営業オフィスで女性組織長が活躍しています。（第一生命 HP より）

しかし、私達は、前述した調査から30代～50代の女性の健康に関して、何らかの問題があると捉えています。女性職員に、ライフイベントによる影響を少なくし、男性同様にバリバリと働き、十分にパフォーマンスを発揮して頂きたいと思っています。

国際的に女性が注目される3月、私達は、**Empowering Woman & Health ーずっと輝く女性と健康ー**をモットーに取り組んでまいります。



一生涯のパートナー **第一生命**



日比谷診療所だより